

News Release



2019年7月17日

関係各位

株式会社スリー・ディー・マトリックス

英国消化器学会における PuraStat Clinical User Group Symposium 開催について

2019年6月に英国グラスゴーにて開催されたBSG (British Society of Gastroenterology) 学会に併設する形で、英国を代表する消化器内視鏡医の方々を招き弊社が主催するPuraStat User Group Meetingを開催いたしました。30人の消化器内視鏡医にご参加いただくことができ、プレゼンターの先生方のPuraStatの臨床現場における活用経験を基にした活発な議論が交わされました。

Professor Pradeep Bhandari (クイーンアレクサンドラ病院)からは、ESDにおいてPuraStatを用いることによって止血のための焼灼処置を半数に抑えることができるというランダム化比較試験結果が共有されました。その研究によると、91名の患者様をランダムにPuraStatを止血のオプションに加える群、とそうでない群の2つに同数振り分け、ESDを実施したところそれぞれの群で95%に止血措置が必要となり、そのうちPuraStatをオプションに加えた群では、51%の患者様に焼灼措置が必要なくなったとのことでした。加えて、4週間後に傷の治りを比較したところ、PuraStatを用いた患者様の方が術後の回復が早いという観察も提示されました。

Dr. Caroline Henson (マンチェスター大学NHSトラスト)からは、放射線性大腸・直腸炎の治療の可能性について彼女が独自に行われた研究概要を共有されました。その研究では骨盤部位に放射線治療を行った後、重篤な炎症・出血症状を示され、かつ従来の治療法が奏功しなかった13名の患者様に対して4週間おきに3-4回PuraStatを塗布されました。彼女の観察によると、9名の患者様の症状が軽くなったとのことでした。彼女は今後、症例数を増やしランダム化比較試験を実施したい意向をお持ちとのことでした。

Dr. John Hancock (ノースティーズ大学病院)からは、これまでの彼のPuraStat使用事例が共有されました。1例目は放射線性大腸炎に対しホルマリン治療を施したところアナフィラキシ

一ショックを起こした患者様に対して、その後 PuraStat を用いたところ、十分に出血がコントロールされ無事退院された事例。2 例目は、重篤な十二指腸潰瘍でクリップでは止血が難しかった患者様に対して、アドレナリンによる治療を施したのち、数回に渡り PuraStat を使用したところ、クリップで止血できるようになる状況まで症状が改善した事例でした。これらの事例から、PuraStat には粘膜の治癒を促進する効果があるのではないかというお考えをご共有いただきました。

英国を代表される 3 名の先生方に各人のご経験に基づいたお話をご共有いただいたことで、ご参加者の先生方も PuraStat に対する知識や可能性をより深くご認識いただくことができました。弊社としては、今後、英国のみならず欧州各国で同様のミーティングを集中的に開催することで、より多くの方に製品へのご理解をより深めていただくことを企図しております。

以 上

本件に関するお問い合わせ先
株式会社スリー・ディー・マトリックス
管理部
Tel : 03 - 3511 - 3440 (代表)